

東京大学樹芸研究所 齋藤暖生先生

1978年岩手県生まれ。京都大学大学院農学研究科森林科学専攻博士課程修了(農学博士)。2007年より東京大学附属演習林助手として着任し、2020年4月から2023年3月まで富士癒しの森研究所長、2023年4月より樹芸研究所長。山菜・きのこ採りなど人と森の関わりの民俗・文化的研究や、自然資源へのアクセス制、森林協働管理の研究に取り組み、森と人間の関係再構築に向けた実践を進めている。

天城を南に下ると、山のようすが、がらりと、色どり豊かに変が、がらりと、色どり豊かに変が、かっていたことはありませんかっていると感じたことはありませんかっているとはからできる。こんなにたくさんの三ドリとこんなにたくさんの三ドリとことなかよく付き合う方法をもっとなかよく付き合う方法をさがしてみるジオカフェです。(くわしくは裏面へ)(くわしくは裏面へ)

伊豆半島ジオパーク 佐々木惠子研究員

1987年神奈川県生まれ。日本の大学で森林に棲む植物を調査。ドイツの大学院までは生き物側の調査をしていたが、研究員時代になってからは地域社会側から自然を見つめることに。伊豆半島ジオパークでは生き物全般を担当。

(ツアーを行います) 森林を観察する

OPTION WALK

13:30

15:00

主催 (一社)美しい伊豆創造センター 後援 下田市・南伊豆町 お問合せ 0558-72-0520



参加費 500 m おやつ付き

2025

12_月

SUN.

10:00 **TALK**

12:00

13:30 **WALK**

15:00

TALK 会場 風まち下田 下田市武ガ浜 3 - 3

WALK 下田公園 か 下田富士

13:30 15:00

WAIK

森林とじつくり向き合うソファ

日曜日の昼下がり…。

緑の中を歩きながら、森林に目を凝らして、 トークに出てきた樹木をおさらいします。

トークの部に登場した齋藤先生と 佐々木研究員がご案内します。

10:00 12:00

TALK

森林と親く付き合う方法って、なんだっけ??

今から100年前の伊豆半島の森は、もっと背が低かったらしい。そ れは、木々の高さが低かったから。当時は日々山へ足を運んで、木 を切っては炭を焼いている人がいました。葉っぱを採っては塩漬 けにしている人もいました。森が人々の生活の資源だったから。 食べ物や電気が容易に手に入る今の時代、私たちの多くはもう、 どの木が炭に適しているのか、どの葉っぱが食べられるのかなん て、考えないかもしれません。こんなに近くに山はあるのに。地球 温暖化も相まって森林はさらに旺盛に。またひとつ近づきにくい 存在になりつつあります。

今回のジオカフェでは、私たちの暮らしを取り巻く大きな緑の茂 みの中に、どんな顔ぶれがいて、私たちをどう豊かにしてくれてい たのか、もう一度注意深くおさらいして、彼らとの関係性を取り戻 してみたいと思います。南伊豆の森には使えるものがたくさん!



【TALK会場】風まち下田(下田市武ガ浜3-3)

※会場に駐車場はありません。 お車の方は近隣の駐車場をご利用ください。

天候や気候に合った 歩きやすいいでたち でおいでください 水分もご持参のこと



